INVITATION

Ehime University Hospital　[愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL 27
2012

◉特集　人と人を繋ぐ地域医療を

患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

10年先の病院を目指し、一歩先の地域連携にチャレンジする

愛媛大学医学部附属病院　病院長　横山雅好　医師
看護部　部長　田渕典子　看護師

――地域連携の現状をどう考えますか？

病院長●「昔に比べると、地域の病院や診療所との連携は随分と進んできています。特に看護部と医療福祉支援センターの努力により、連携は非常に充実してきました。」

看護部長●「看護部では、患者さんが当院を退院して地域の病院へ移る際、看護師が相手先の病院に出向くようにしています。相手先の看護師と情報共有を行い、当院での看護と相手先での看護が切れ目なく、スムーズに続いていくことを目指しています。医師と看護師では患者さんを捉える視点が異なります。先生方の仕事は、患者さんの病気を治療することです。一方、看護師は患者さんを“生活者”として捉え、病気を治療して、やがては地域へ元の生活へと戻っていただくことを前提としています。先生方に良い治療をしていただき、その後は私たちがバトンタッチして地域へ早く帰れるよう支援します。この循環を院内で、そして地域へと発展させ定着させることが重要だと感じています。」

病院長●「その循環を発展させるためには、県内医療全体のレベルを上げていくことが必要不可欠です。例えば、患者さんを送る側と受け入れる側の看護師の技術・知識がある程度同じレベル、同じ土台を持っていないと連携はうまくいきません。看護師同士の交流を促進し、当院から看護師を送り、また他病院の看護師をこちらも受け入れることによって、土台の共通項ができ、連携もスムーズになるのではないかと思います。」

看護部長●「私も他病院との連携を通して、お互いの看護の水準を高めていきたいと思います。また、院内だけではなく、愛媛県下の看護職員を確保・定着させるにはどうすれば良いのかを考えるようになりました。県全体の医療・看護の向上について考えるのは、大学病院が果たすべき役割でもあります。」

病院長●「特に愛媛大学は、県内唯一の医師養成機関です。10年先の医療体制を目指していく病院であり、10年後を担う医療人を育てる教育の場でもあります。当たり前のことを当たり前にやっていたのでは、優れた医療人は育ちません。地域との連携にしても、他より一歩進んだ、理念を具体的に活動に移すことを意識しなくてはなりません。」

――昨年、印象的だったことはありますか？

看護部長●「病院長にチャレンジの場を多く与えてもらい、看護部では様々な試みを実行に移してきました。現在、スタッフにはチャレンジしようという気持ちが常にあり、非常に良い循環が生まれています。この個の力が組織の力になり、組織の力が地域の力になってきているように感じます。また昨年、看護師の離職率が過去最低となりました。どんなに忙しくても、自分のやりたいことが出来ることで、看護師のモチベーションは上がり、専門職として進む道を見出すことに繋がったのだと思います。」

病院長●「東北大震災の発生後、当院からも応援を送り、医師と看護師、薬剤師を1つのチームとして、1週間ずつ切れ目なく派遣しました。被災地から帰ってきたスタッフに、もう1度行ってくれるかと尋ねたところ、それぞれ大変な思いをしたにも関わらず、ほとんどの人が行きます、と。当院スタッフの意識の高さに触れ、非常に感激しました。」

――今後の方向性についてはどうでしょうか？

病院長●「医師・看護師・技師など、各部門での取り組みは充実してきました。病院食における、ホテルJALシティ松山を運営するマーチャント・バンカーズ株式会社との提携や看護師の研修制度、南松山病院との連携など、各分野で良いモデルができてきています。今後は、こうした取り組みを、県内・全国へと発信していく段階です。また、行政へもこちらから働きかけ、提言をしていきたいと考えています。」

看護部長●「2012年は、地域の病院との連携をさらに進めるため、自分の足で各病院へ出向いていきたいと考えています。連携とは、人と人を繋ぐことです。書類上の言葉だけであってはいけません。直接、相手と会話することで、当院を理解してもらい、お互いの連携がより図れると思います。そんな関係づくりを、1月からさっそく実行していきます。」

病院長●「当院での様々な取り組みが、ようやく実を結びかけてきています。2012年も実践を重視し、職員が一丸となり、県内医療の向上に貢献できるよう努めてまいります。」

基礎研究と臨床との橋渡し「トランスレーショナルリサーチ」を推進する

先端医療創生センター　センター長　**白方裕司**　医師

PROFILE

しらかたゆうじ◎1987年、愛媛大学医学部卒業、医学博士。今治病院を経て1993年から愛媛大学、2006年再生医療研究センター長専任、2010年細胞プロセシングセンター長併任、2011年11月より先端医療創生センター長。

平成23年11月、「先端医療創生センター（TRC）」が新たに開設されました。当センターでは、医療に係る基礎研究を臨床へ結びつけるための橋渡し研究＝トランスレーショナルリサーチ（TR）を支援します。愛媛大学医学部では、平成7年より培養皮膚移植（皮膚再生）の研究をスタートさせ、平成18年には「再生医療研究センター」を設立。さらに基礎研究に力を入れるため、平成20年には「プロテオ医学研究センター」へと発展しました。プロテオ医学研究センターでの基礎研究が進んできたことを受け、臨床への応用を支援するために当センターが設立されました。基礎研究の成果は、研究のままで終わらせずに患者さんへ還元しなくてはなりません。しかし、研究成果をすぐさま臨床応用するのではなく、段階的に推進する必要があります。この臨床の前段階の研究が当センターの役割です。

実際の研究は、各科の研究者が行います。研究者の中には良いアイデアをもっていても、ノウハウがなくやり方が分からない、という方もいらっしゃいます。当センターでは、そういう研究者に対して臨床応用していくためのアドバイスなどを行います。また、各研究者たちのノウハウ・技術を集約し、アイデアを出し合うことによってより良い方向へ研究が進むよう支援します。現在、興味深いアイデアをもっている研究者も多く、また研究が進んできているものも数多くあります。当院発で臨床に実用化できるものが多く出てくるよう、研究者・プロジェクトの支援を行っていきたいと考えています。愛媛発の先端医療を当センターから世界へ向けて発信させたいと考えています。

認定看護師の技術や知識を、院内はもとより地域へ還元していく

看護部　副看護師長　**桝田夏代**　看護師

昨今、患者さんの疾病構造が複雑化し、看護師にも高度な医療提供、専門性が求められてきています。そこで特定の看護分野において、熟練した技術・知識を用いて看護ケアの広がりと質の向上を目的として認定看護師の育成がされています。当院には、10分野11名の認定看護師が在籍しています。

私は、当院最初の認定看護師で、分野は「感染管理」です。認定看護師を目指したきっかけは、看護部長の勧めでした。勉強や勉強する環境など不安や心配はありましたが、病院が全面的にバックアップしてくれたおかげで有意義な学生生活を送ることができ大変感謝しています。認定を受けた後は、学んだことを還元できるよう、病院で働く全ての人を対象に働きかけを行っています。また「認定看護師の会」の代表を務めています。この会では、院内の認定看護師が月1回集まり情報交換や連携の状況確認のほか、院外の看護師を交えての学習会なども行っています。当院は、愛媛県内唯一の大学病院ですので、これからますます専門性の高い医療を求められていきます。私たちの技術・知識を院内だけではなく、地域の方々へ還元し、地域全体の医療向上に貢献していきたいと考えています。

地域全体でのレベルアップが必要。その中心的な役割を担う

感染制御部　部長　**田内久道**　医師

感染症の病原体を研究しその治療法を開発していく感染症学のなかで感染制御は比較的新しい学問です。中堅以上の職員の方はご記憶と思うのですが、2000年以前は診療中に医療スタッフを患者さんの感染症から守るという考え方はありませんでしたし、科学的では無い院内感染対策が多数行われていました。そのため患者さんだけでなく、病院で働く職員や実習中の学生も常に感染症のリスクにさらされていました。これに対応するため感染制御チームが編成され、現在では病院全体で組織的に感染を防ぐ体制ができてきています。

現在の感染制御チームは内科系、外科系の医師、看護師だけでなく薬剤師、検査技師、事務、各分野のスペシャリストが集まっています。このスタッフで意見を交わし合い、方法や方針をまとめ、医療の現場に役立つことができる組織作りを心がけています。また、地域にある病院も含めた愛媛県全体で、感染制御について取り組んでいける地盤を作っていければと考えています。

PROFILE

たうちひさみち◎1989年愛媛大学医学部医学科卒業、医学博士。松山市民病院、新居浜病院を経て愛媛大学周産母子センターへ。2007年感染制御部副部長を兼任。趣味は、「ねこ」。

本院ボランティアの野村さんが、地域公益活動賞を受賞

本院ボランティアいきいき会副会長の野村和夫さんが、平成23年9月7日、(財)日本郵政退職者連盟から平成23年度の地域公益活動賞を受賞されました。これは、野村さんが本院のボランティア活動をはじめ、広く地域のボランティア活動に携わった功績が評価され、(財)日本郵政退職者連盟会長から、所属する四国郵政退職者共助会の本年度個人表彰として選ばれた栄えある賞です。野村さんは「この賞に甘んずることなく、今一度、ボランティアの初心に立ち返り、ボランティア活動に精励したい」と抱負を述べられました。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

楽しいクリスマスプレゼント

平成23年12月14日(水)、医療サービス推進委員会とがん患者サロン「あいほっと」は、一昨年に続き、歌手の荒川和子さんを招き、クリスマスコンサートを開催。荒川さんの美しい歌声とスピーチに誰もが魅了されました。公演終了後も、サインや握手を求める患者さんが列をつくっていました。

医療サービス課医療福祉推進チーム
TEL089-960-5099　FAX089-960-5099

24時間チャリティイベントに参加

平成23年10月8日(土)正午から24時間、がんの啓発、研究・治療のための寄付を募る「リレー・フォー・ライフ2011inえひめ」に、当院を含めて30チーム余りが参加しました。愛媛県での開催は、今回で2回目。たくさんの方のサポートを受け、9日正午に完歩し、無事終了しました。

医療福祉支援センター
TEL089-960-5261　FAX089-960-5959

編集後記

明けましておめでとうございます。2012年の初春号をお届けします。特集のテーマは「チームワーク」にしました。昨年は未曽有の大災害に見舞われた日本ですが、今年は再生の年になります。来りうる大災害に備えをしながら、より豊かな地域医療の向上を図ってゆかねばなりません。そのためにはチーム医療の充実が大切と考えています。昨年の漢字は「絆」でした。今年の漢字は「幸」にしたいですね。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長　檜垣實男

◎表紙の人
安川学部長
横山病院長
副病院長5名
運営部長
―石鎚山をバックに―

愛媛大学医学部附属病院
〒791-0295 愛媛県東温市志津川　Tel.089-964-5111(代)
ホームページ http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/